

## 第59回定時株主総会 追加説明

### 1. 中期的展望における経営方針について

当社は、次の三つの基本方針を経営の三本柱としております。

その第一は、「ベアリングとベアリング関連製品事業の一層の強化拡充をはかる」ことであります。

第二は、「精密小型モーター事業をさらに拡充し、ベアリング関連製品と並ぶ柱に育てる」ことであります。

そして第三は、「全ての製品について、高付加価値製品の比率を引き上げると同時に、製品の幅を広げ、より広範囲な市場に対応できるようにする」ことであります。

当社最大の特徴であり、強さの源泉であります『超精密機械加工技術』、『大量生産技術』及び『垂直統合生産方式』を徹底的に追求することにより、経営の三本柱の実現を計っております。

特にミニチュア・小径ボールベアリングにつきましては、『月産1億8,000万個体制の構築』がほぼ完成し、2005年3月には社内使用を含め、1億8千万個を越える生産、1億7,000万個を越える販売を達成いたしました。

また、三つの基本方針を更に加速して進めるため、「構造改革の断行」、「技術開発の強化」、「将来像を明確にした経営」を進めて参ります。

特に「構造改革の断行」は、7月1日より組織の大幅な改変を行う予定であります。その骨子は、従来2つに分かれておりました製造部門と営業部門を事業単位である事業部の下に一本化し、この事業部という事業単位で製造部門と営業部門が一体化した組織が、製造と販売の両面から担当事業の損益の責任を持つことといたします。

また、各事業部は、製造本部、営業本部等の本部組織の下部組織ではなく、社長直轄の組織とし、事業に関する責任と権限を明確にするとともに、意思決定及びその執行の迅速化を計り、当該事業としての収益追求の最大化を目的にした組織といたします。

次に本部組織ですが、製造本部、営業本部、技術本部、業務本部、管理本部の5本部制とし新事業部と同様に社長直轄の組織と致します。各本部は、新事業部を下部組織として直接の指揮・監督下に置くのではなく、側面から新事業部を支援し、新事業部が担当する事業を成功へ導いて行く役割を果たします。

事業部を縦の組織、本部を横の組織として、縦糸と横糸がバランス良くかみ合う組織とし、事業部・本部共に、責任と権限を明確にして、組織が機能的に活動できる体制に致します。

また、「技術開発の強化」についてであります。従来製作所等で各製作所の判断で行われる傾向にありました研究及び技術開発を新しい技術本部の基で、事業活動の重複を避けるとともに、各所で行われている技術開発をつなげて最大限のシナジー効果を発揮できるよう技術部隊の再編などを行い、その効率的な運営に努めます。

そして、「将来像を明確にした経営」とは、改めて今後の市場の動向を分析し、将来発生するニーズに向かって技術開発等の準備を行い、製品開発に資本を集中して投資して参ることと致します。

これら3つの施策により、当社の経営基本方針を加速いたして参ります。

### 2. タイにおける生産活動について

1982年に、バンコック市の北方75kmの所にあるアユタヤ市で、生産活動を開始して以来、22年が経過いたしました。

現在タイは、4地域に工場群が展開し、従業員約3万人、ミネベア・グループの総生産高の約50%を産出する、ミネベア・グループ最大の生産拠点であります。

「流体軸受搭載型HDD用スピンドルモーター」、「ミニチュア・小径ボールベアリング」、「ピボットアセンブリ」、及び「液晶用ライティングデバイス」等の生産拡大を行うなど、当社の主力生産基地としての拡充が続いております。

一方、現在、キーボード生産については、中国上海市への移管を計っており、2005年9月末までに殆ど完了する見込みであります。

### 3. 上海市における生産活動について

当社は、1994年に、中国の上海市郊外にミネベア・グループ初の中国現地法人『上海ミネベア精密機電有限公司』を設立し、「ミニチュア・小径ボールベアリング」と「ファンモーター」の生産を開始いたしました。

その後、それら製品の生産は順調に引き上り、現在の生産規模は、「ミニチュア・小径ボールベアリング」が、月産約3,000万個、「ファンモーター」が、月産約800万台であります。それぞれ4,000万個、1,000万台に引き上げる計画が進行中であります。

西岑工場に於いては、「ファンモーター」の他、「歪みゲージ」や「ロードセル」等の計測機器の生産を行っております。

また、2002年に、シンガポールのハンシングループと、上海市に、キーボード生産の為の新会社『上海シュンディン・テクノロジー有限公司』を設立し、2003年8月に生産を開始いたしました。現在、タイの生産を同社へ移管中でありますが、2005年9月末までに移管は完了する予定であります。

ミネベア・グループの総生産額に占める中国の比率は、現在約17%であり、中国は、タイに次ぐミネベアグループ第2の生産基地であります。

なお、両社を合わせた中国オペレーションは、2005年3月末現在で、資本金額276億円、機械設備・工場建屋など固定資産総投資額593億円、従業員数約8,700人、当期の売上高390億円であります。

今後、中国市場、及び世界市場、中国情勢並びに為替の動向等を良く見極めながら、中国工場の生産品目、生産規模の判断を行って参ります。

### 4. ミネベア・松下モータ株式会社について

「ミネベア・松下モータ株式会社」は、2004年4月1日に、当社と松下電器産業株式会社モータ社の情報モーター四商品事業の統合により、両社の合併会社として発足いたしました。出資比率は、当社が60%、松下電器産業株式会社が40%であります。

情報モーター市場は、日本メーカーによる寡占化が進む一方、中国メーカーの参入などにより、競争が激化しております。一方では、プラズマテレビ、液晶テレビなどのデジタル家電、パソコン、携帯電話などの情報端末、また、ゲーム機などの新規分野で需要拡大が期待される成長市場であります。

ミネベア・松下モータ社は、当社の超精密機械加工技術、大量生産技術及びコスト競争力と、松下電器産業株式会社の最先端商品開発力を融合させて、競合他社に先行した優位性のある高付加価値商品の開発、開発スピードの向上、製造力及び顧客密着営業体制の強化を図り、統合した情報モーター分野で世界一の地位を目指して参りますが、今期はその為の拠点の統合、外注政策を更に進め、利益体質の基礎堅めに全力を挙げて取り組んで参る所存であります。

以上 ご説明申し上げます。